

女性に対する暴力をなくす運動／ひとり親支援講演会 「シングルマザーと子ども、仕事、仕事、仕事、仕事」

11月26日木の講演会では、シングルマザーのおかれている現状や悩み、必要な支援などについて、講師の赤石千衣子さんに解説いただきました。

シングルマザーとなる背景には、DV、配偶者の借金等による離婚や死別など、さまざまな要因があります。そして、日本のひとり親家庭の貧困率というのは、先進国で最悪です。厚生労働省の調査によると、日本のシングルマザー世帯数は123.8万世帯で、就労率は81%、しかし平均年収は223万円。就労率が高いのに、非正規労働が多く年収は低い。これが日本のシングルマザーの大きな問題です。



講師／赤石 千衣子 さん

自身がシングルマザーであったことから、シングルマザー当事者団体の活動に参加。現在は、「シングルマザーが子どもと一緒に生き生き楽しく生きられる社会」をめざすNPO法人「しんぐるまざあず・ふおーらむ」の理事長を務める。

また、シングルマザーは、金銭的なものだけでなく、時間的な余裕のなさや、子どもとの関係、学歴

や資格の取得など、さまざまな問題や悩みを抱えている人が少なくありません。当事者は、生き方に自信を持つのが難しい状態です。まずは自分の決断したことや生き方に自信を持ってもらうことが大切。ひとり親家庭も立派な家庭のひとつです。加えて、子どもを立派に育てようと気負いすぎず、ありのままが良いということも伝えていきます。

そして、支援者へは、一人ひとり置かれている状況や背景が違うので、決めつけない、ことを大切にしよう。お願いします。支援がいろいろなところ広がって行くことでセーフティーネットの網の目が細くなり、救われる人が増えれば良いと思います。



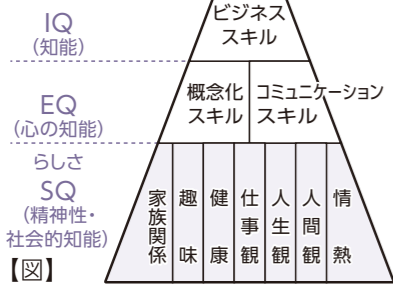
女性のチャレンジ応援事業 働く女性の「勇気と自信の“素”づくり」公開講座 「これからのリーダーに必要なものとは」

自分自身のキャリアを見つめ直し、リーダーを目指してチャレンジしたい人向けの連続講座の1コマを11月27日(金)に公開講座として実施。海上保安庁で女性初の巡視艇船長となった講師の実体験と研究を基にした、活気あふれる講演となりました。



講師／永田 潤子 さん

大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授。海上保安大学校に初の女子学生として入学。26歳で女性初、最年少で海上保安庁巡視艇「まつなみ」の船長となる。その後、現場で感じたさまざまな問題意識を解決したいと研究の道へ。



海上保安庁での最初の赴任先である大型船で、メンターである上司から「航海に出る前、恋人とケンカをしたら仲直りしてから来るように」と教えられました。きつと「仕事の前に心の環境整備をしろ」という意味だったと思います。心の環境整備、つまり、心配事をなくして心を平穏にしておくことは、どんな仕事をする人にとっても、特に瞬時の決定を求められるリーダーにとって大切なことです。

リーダーシップという上司から部下に対するものと思われるがちですが、『目的を達成するために人に影響力を及ぼすこと』であり、人や資格の取得など、さまざまな問題や悩みを抱えている人が少なくありません。当事者は、生き方に自信を持つのが難しい状態です。まずは自分の決断したことや生き方に自信を持ってもらうことが大切。ひとり親家庭も立派な家庭のひとつです。加えて、子どもを立派に育てようと気負いすぎず、ありのままが良いということも伝えていきます。

「今日のテーマは、「人を区別したいのではありません、いろんな人がいることを知ってもらいた」ということ。『見えない』ではない。『見えません』。見てこなかった、見ていなかっただけ。LGBT(性的少数者)の方々は確かにいるのです」という言葉から始まったワークショップ。講師の島谷さんは、2015年にLGBT当事者(バイセクシャル)であることを公表し、現在LGBTについて、講師としても精力的に活動しています。



講師／島谷 仁 さん

九州・熊本を拠点に、「あるがままに生きるためのカラーセラピー」をコンセプトとして、色彩心理を用いたカウンセリングや養成講座を開講中。

男女共同参画 in パレア WORKSHOP

LGBT FRIENDLY 宣言

「子どもを守るためのLGBT基礎講座」

企画・運営 Salad bowl

人は「身体の性」、「こころの性(性自認)」、「好きになる性(性的指向)」、「社会的な性(男らしさ、女らしさ)」という4つの側面から見た場合、単純に「女」「男」に二分されるのではなく、まさに十人十色、グラデーションのよう個性が異なるといえます。さらに、使用するべきでない差別的な呼び方について、「テレビなどで、オネエタレント」という言葉が聞かれますが、あれは特別な例。通常、使用して良い言葉ではありません。「君、こっちは系?」(笑)など何気なく使っている言葉に、差別的要素が含まれていることもあると警鐘を鳴らします。

そこで、今日から始められること4つ。

「LGBTの基礎知識を友だち、家族、同僚に話してみる」「自分のSNSアカウントでLGBTについて発信してみる」「普通」常識、という言葉を当たり前だと思わない」「『差別的な発言に対して同調しない』。このような行動が、周りにいるかもしれない当事者たちの信頼感につながります。そしてもしLGBTであることをカミングアウトされたら、『大事なことを話してくれてありがとう』と言ってあげてほしいですね。それだけで当事者はきつと安心できるはずです。」